

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	建設局		
				担当課	公園建設課		
				課長名	藤井		
事業名	地域に役立つ公園づくり事業			施策番号			
				I - 1 - (1) - ⑥			
事業概要	計画段階から地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指すものです。具体的には、小学校区を1つの単位として、まちづくり協議会を中心とする地域住民と協働で校区内にある街区公園の再整備計画を策定し、整備を行います。			事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他		
					()		
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	人件費	目安の金額	課長	0.05 人
		230,000 千円	234,794 千円		6,825 千円	係長	0.10 人
				(事業費備考)			
				(人件費備考)			

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	まちづくり協議会には、町内会長や公園愛護会長のみならず、婦人会や子ども会、小学校PTAへ、参加の声をかけをお願いします。その一方で、市でも、小学校への遊具アンケートや公園周辺の住民へのPRチラシポスティング等を行い、さまざまな世代、さまざまな立場の住民の意見を吸い上げることにつとめます。
	ワークショップ参加者の年齢層に偏りがみられるため、多世代参加に向け更なる努力が必要です。		

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	順調
	市民	公園を身近に感じられ、積極的に活用してもらう状態にすることを目指します。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	市民が公園を身近に感じられる状態	38 公園	35 公園	38 公園	平成24年度までにワークショップを実施し計画策定を行った校区において、予定通り、再整備工事を行いました。
	当事業は 地域住民とのワークショップを重ね、地域のニーズを反映させた公園を整備するため、「当事業による整備公園数」を指標とします。 (最終目標と目標年度)	31 公園		108.6 %	
	(最終目標と目標年度)			%	
			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	H25年度は、2校区でワークショップを開催し、計画策定を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	計画策定校区数	4 校区	2 校区	2 校区	予定通り、2校区においてワークショップを開催し、計画策定を行いました。
	毎年、各区の事業実施進捗率や街区公園の老朽化度、まちづくり活動への積極性などをもとに、複数校区を選定し、計画策定を行っていきます。	4 校区		100.0 %	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 H25年度に、2校区でワークショップを開催し、計画策定を行いました。ワークショップを通じて、公園のあり方や維持管理の視点など、地域の公園の現状や問題点などを共有することができました。このほか、ワークショップにおける意見交換や小学校児童への遊具アンケートなどを通し、参加者が互いの意見を聞きながら計画をつくりあげていくことで、より公園を身近に感じ愛着を得る良い機会となりました。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点 ワークショップにおいては、造園コンサルタントや市職員が助言をしつつ、使用可能なものは再利用したり、新設の施設についての必要性などを参加した住民の皆さんと議論したり、常にコスト削減の考え方を取り入れた再整備計画案を策定しています。また、民間活力導入については、公共性が極めて高い事業であることから、他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当と考えています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	水環境課
課長名	関川

事業概要

事業名	河川改修事業の推進				施策番号	
					Ⅱ - 1 - (4) - ④	
事業概要	近年、ゲリラ豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増加しています。浸水被害を抑制するため、治水事業の根幹となる河川改修を推進します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		目安の金額
	2,056,000 千円	2,538,604 千円		86,500 千円	(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 今後も引き続き、用地の確保や関係機関との調整に努め、浸水対策に効果的な整備を行っていきます。	見直し内容 整備箇所毎に最も経済的な方法を検討し、事業の重点化・効率化に努めます。(現状維持)
----	---	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	-
	市内全域	浸水被害を抑制するため、治水事業の根幹となる河川改修を推進します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	浸水被害の低減	-	-	-	建設途上のため、単年度の評価はありません	
	河川毎に計画している降雨(1時間で50~70mm程度)に対応できる状態を目指します。	-	-	-		
	(最終目標と目標年度)H40年度	-	-	- %		
(最終目標と目標年度)			%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	H21、22の豪雨により浸水被害が発生した河川の重点的な整備をはじめ、優先度の高い河川について護岸工事等を行い、河川整備の進捗を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	河川整備率	79 %	81 %	81 %	順調に河川整備率を上げていきます。
	河川の拡幅や河床の掘削等を行い、河川整備率を上げることにより、治水対策を進めます。(平成40年度までに河川整備率100%を目指します。)	80 %		100.0 %	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	工事については、ほぼ順調に進められています。引き続き、用地の確保や関係機関との調整に努め、浸水対策に効果的な整備を図っていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	河川整備は浸水被害の根本的な解決策であり、効率的な方法だと考えます。また、整備箇所毎に最も経済的な方法を検討し整備を行っています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	緑政課
事業名 健康づくりを支援する公園等整備事業							課長名	柴田
							施策番号	
事業概要 公園に高齢者の健康増進に配慮した健康遊具を設置し、健康教室を開催して、利用者に使い方を説明します。継続的にこの健康遊具を利用することにより、高齢者の体力増進に繋がります。	事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()							
							コスト 事業費	25年度当初予算額 11,000 千円

【Action】改善			
課題 H23年度の評価結果を受けての課題	高齢者の健康増進のため、健康遊具の利用促進につながるよう努めます。	見直し内容	健康教室や普及員の養成などを行い、健康遊具の利用促進に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的 対象(誰を、何を) 主として高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 健康的な高齢者が住まう社会	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 高齢者に配慮した健康遊具の設置公園数	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	各区に健康遊具(7種)を設置する拠点公園を整備し、高齢者の健康増進につなげていくことを目標とします。また、健康遊具の使い方を知る市民を増やし、街区公園など身近な公園で自発的な健康増進活動が行われていく社会を目指します。 (最終目標と目標年度)30公園 H35年度		2 公園	2 公園 100.0 %	当初の予定どおり、2公園に健康遊具を設置したため、順調としています。
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画 どうやって目的を達成するか 保健福祉局と連携し、公園に配置した健康遊具を利用して、高齢者向けの健康教室を行います。健康教室の中で、地域の方々に健康遊具を効果的に利用してもらい、高齢者の健康づくりを推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 健康遊具を設置した公園で健康教室を行った公園数	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	保健福祉局と連携し、高齢者の健康増進につなげるため、健康教室を行った公園数を設定しています。		2 公園	2 公園 100.0 %	保健福祉局と連携して、当初予定どおり健康教室を2公園で実施していることから、順調としています。
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 成果状況、活動状況については、事業が予定どおり進んでいるため、順調としました。また、建設局(健康遊具整備)と保健福祉局(健康教室)が連携し、高齢者の健康増進活動を推進しているため、効果は高いと考えています。
「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	健康づくりに関する活動に関心の高い地域に健康遊具を備えた公園を整備することで、多くの地域の方々に利用されることから効率的に整備を行っており、効果は高いと考えています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局	
							担当課	道路計画課	
							課長名	上田	
事業名	ボランティアネットワークの推進(道路サポーター)						施策番号		Ⅲ - 1 - (1) - ③
	事業概要	市が維持及び管理する道路において、道路清掃・美化などのボランティア活動を行う地域の団体を対象に、清掃用具や花苗の支給などにより支援します。						事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト		事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額		課長
			18,702 千円	13,920 千円			9,400 千円	係長	0.17 人
							職員	0.95 人	
							(人件費備考)		

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	道路サポーター制度の運営に関する新たな仕組みを導入し、活動団体による主体的な運営を促すとともに、区毎に道路サポーター活動団体が交流・連携のために集まり、身近なところでの新規活動団体の結成促進を図ります。事業費は業務委託内容の見直しにより、経費の削減に努めることとしています。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 環境美化ボランティア活動	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	道路、公園、河川のボランティア活動を行うこと、団体相互の情報交換や活動の共有化(ネットワーク)を行うことで、事業のさらなる発展と本市の美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	道路サポーター加入団体数 美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図るためには、道路サポーターの加入団体数が増加することが望ましいため、加入団体数としました。 (最終目標と目標年度)平成25年度までに220団体	179 団体 187 団体	220 団体	196 団体 89.1 %	新規に加入する団体数は一定数ありましたが、成果は目標に届きませんでした。
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 今年度は、昨年度に引き続き、清掃活動等の支援(清掃用具や花苗の支給など)をNPO法人に委託します。また、活動団体の交流・連携を図る目的で総会を開催します。今年度から、道路サポーター活動団体で構成される「北九州市道路サポーターの会」を設立し、区会を設けて、身近なところで活動団体同士で話し合い、活動団体自らが課題解決を図ります。また、区会で培われる横の連携により脱退抑止と新規加入団体を掘り起こします。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	道路サポーター活動団体結成促進のためのPR活動等 エコライフステージへの出展や、国土交通大臣表彰への積極的な推薦により、道路サポーター活動について市民の方に関心を持っていただき、道路サポーター活動団体の結成促進につながるよう努めます。	予定通り実施 予定通り実施	-	予定通り実施 %	当初の目標通り、エコライフステージへの出展等によりPRを実施しました。
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>活動は予定どおり行いましたが、成果は目標に届きませんでした。新規に加入する団体数は一定数ありましたが、一方で、活動団体の解散が増えてきたことが要因と考えられます。</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>広報にコストをかけずに、多くの市民に本制度を知っていただくため、清掃活動に関する各種イベントへの参加や活動団体の交流・連携のために開催する総会への一般参加の受け入れ等を行っています。民間活力導入については、ボランティア活動を支援する企業等が現在の市の支援レベルを確保できれば、可能性はあると考えられます。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	公園管理課
						課長名	菊山
						事業名	
10名以上の地域住民で組織されるボランティア団体で、公園の美化活動・公園施設の点検や禁止行為の連絡・公園利用者のマナーづくり・市民花壇づくりなどを行い、活動面積に応じて活動費を助成しています。						事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
							コスト
		5,500 千円	5,171 千円			18,135 千円	(人件費備考)当該事務事業については各区まちづくり整備課が補助金交付事務や愛護会の相談事務を行っています。

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	高齢化により解散する団体も多く、H24.4時点では1,147団体ですが、今後も公園愛護会の活動について市民の方に興味を持っていただき、公園愛護会の結成促進につながるよう努めます。	見直し内容 公園愛護会活動についてのPRや積極的な表彰、表彰の推薦を行い、結成促進に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	順調
	街区公園の維持管理	公園の清掃や除草などの維持管理について、地元等で結成されている公園愛護会と協働による事業の実施を図るため、公園愛護会の結成促進を目指します。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	公園愛護会団体数 高齢化、少子化、さらには経済不況などの影響に伴い、ボランティア活動を行う団体の解散もあることから、全体の結成数を現状維持とし、H25年度時点で1,160団体を目指します。 (最終目標と目標年度)	1,159 団体 1,155 団体	1,160 団体	1,158 団体 99.8 %	目標には届かなかったものの、高齢化等により解散する団体が多い中、結成促進に努め、団体数を維持することができました。
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	公園愛護会へ助成金の交付を行い、清掃や除草等の活動を支援します。エコライフステージに出展し、道路サポーターや河川愛護団体とともに公園愛護会の活動を紹介します。熱心な活動団体の各種表彰への推薦を積極的に行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	公園愛護会結成のためのPR活動等 エコライフステージへの出展や、都市緑化祭での市長表彰の実施、国土交通大臣表彰への積極的な推薦により、公園愛護会活動について市民の方に興味を持っていただき、公園愛護会の結成促進につながるよう努めます。 H25年度は、市制50周年記念事業として、シンポジウム等を開催し市民へのPR活動等を促進します。	予定どおり実施 予定どおり実施	—	予定どおり実施 — %	予定していたPR活動、表彰の実施等を行い、公園愛護会の結成を促進しました。市制50周年記念事業として、シンポジウムの開催、パネル展示、公園愛護会への感謝状の贈呈を行い、市民へのPR活動と活動意欲の向上を図りました。
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>
	<p>会員の減少、高齢化により解散する団体も多い中、成果指標・活動指標ともにほぼ目標を達成し、状況はいずれも順調と考えています。</p> <p>本事業はボランティア団体である公園愛護会と協働を図ることで、公園の維持管理コストの一部削減を実現しています。本事業を止めた場合、公園の維持管理コストが増大し、また適切な維持管理が出来なくなる恐れがあります。公園愛護会との長年の協働が、現状の公園の維持管理につながっていると考えます。ボランティア団体による活動であるため、補助金交付や公園整備等、市の関与をなくすことは出来ません。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	建設局
				担当課	水環境課
				課長名	関川
事業名	ボランティアネットワークの推進(河川愛護団体)			施策番号	
				Ⅲ - 1 - (1) - ③	
事業概要	地域の住民で構成する河川愛護団体に清掃道具購入の費用等となる補助金を交付することにより、美化活動を広げます。また、美化活動に参加することにより、地域の河川を身近に感じ、自分たちの川として愛着を持つような啓発活動へとつなげていきます。			事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		目安の金額
事業費	250 千円	240 千円		14,600 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	後継者不足から活動を断念する団体もあり、これを引き留めるのは難しく、団体数の単純増加を期待することは困難です。しかしながら今後も、河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持っていただき、河川愛護団体の結成促進につながるよう努めます。	見直し内容 河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持っていただけるよう周知(市ホームページの充実など)を図ります。また活動を断念した団体があれば、その地域を重点的に、結成の促進活動を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	順調
	市民	地域の河川を身近に感じてもらい、美化活動を広げていきます。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	河川愛護団体数	69団体	71 団体	67 団体	団体総数が1団体増え、新規加入団体が3団体ありました。
	河川における美化活動を広げるためには、地域での意識を高めるために、身近な団体を作り、情報発信を行う必要があります。 (最終目標と目標年度)72団体 H30年度末	66団体		94.4 %	
				%	
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	・河川愛護団体へ補助金の交付を行い清掃や除草等の活動を支援します。 ・エコライフステージに出展し、道路サポーターや公園愛護会とともに河川愛護団体の活動を紹介します。 ・永年に渡って熱心に活動に取り組まれている愛護団体や会員の方を、福岡県の河川功労者表彰などへ積極的に推薦しています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	河川愛護団体結成促進のためのPR活動等	予定どおり実施	—	予定どおり実施	活動指標について予定通り実施しています。
	エコライフステージへの出展や、福岡県河川功労者表彰への積極的な推薦により、河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持っていただき、河川愛護団体の結成促進につながるよう努めます。	予定どおり実施		— %	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>後継者不足などから活動を断念する団体があつたため、団体総数は、目標には達しませんでした。しかし新規加入団体が3団体あり、活動の輪が広がっていると考えられます。</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>河川愛護団体の行う清掃や除草を他の方法で行うと、業者への委託となりコストが高くなります。また、地域の住民のようなきめ細かな対応は困難です。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	緑政課
課長名	柴田

事業概要

事業名	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (2) - ①	
事業概要	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花や緑を活用する事業です。花壇(公共花壇)の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うるつちゃ!花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進します。道路や公園などの緑は、都市景観を印象付けるとともに、快適な生活環境をつくりまします。また都市景観を印象付け、快適な生活環境をつくる道路などの緑の整備については、植栽場所の生育空間などを考慮した、ゆとりある植栽を行うとともに、適正な維持管理を行うことで健全な緑の育成に努めています。さらに特別緑地保全地区制度や保存樹制度を活用し、都市に残された貴重な緑の保全に努めています。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		目安の金額
	93,183 千円	112,038 千円		23,150 千円	(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 ①効果的な場所への公共花壇の設置 ②特別緑地保全地区における土地取得の遅れ	見直し内容	①公共花壇の配置及びデザインの見直し ②土地取得の強化
----	---	-------	--------------------------------

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	①市内各所 ②都市内の緑	①花で彩られ、四季折々に花を楽しむことが出来る「花のまち北九州市」をさらに育ていき、市民はもちろん、ここを訪れた人にも「住んでみたい、住み続けたい」と思える「花とみどり潤いのまちづくり」を目指します。 ②特別緑地保全地区において、土地取得を行います。					
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由		
	公共花壇及び市民花壇の面積	44,829 m ²	45,987 m ²	44,693 m ²	公共花壇、市民花壇については技術講習会と連動し、花壇の質の向上を図りました。花壇面積は目標値に達していませんが、市民花壇の箇所数は増加しており、街なかで花を楽しむ箇所は順調に増えました。特別緑地保全地区については予定通り買収が進み、都市の良好な緑の保全することができました。		
	公共花壇及び市民花壇は市民が一番身近にある花壇であり、市と市民の花づくりの実績に直ちに反映されるものです。今後も市民との協働で「花とみどりの潤いのまちづくり」の推進に努めていきます。 (最終目標と目標年度) 平成27年度 46,587m ²	45,766 m ²		97.2 %			
	特別緑地保全地区の買収面積	2,400 m ²	2,400 m ²	2,572 m ²			
特別緑地保全地区の買収を行い、都市の中の緑の保全を行っています。 (最終目標と目標年度)	0 m ²		107.2 %				

活動計画	市民花壇においては市民との協働を推進していき、種からの花づくり推進やフラワーコーディネーターの主催する講座の開催などを推進していきます。 公共花壇においては、市民ボランティアとの協働や企業・団体の協力を得ながら効率的な維持管理に努め、より効果的な場所に設置し事業効果を維持していきます。 緑地保全地区においては、買入れ申し出のある土地について取得を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	花づくりに関する講座の開催	13 回	10 回	10 回	フラワーコーディネーターによる花づくりの講習会は、大変好評です。市民花壇ボランティア対象の講習会も地域の市民花壇づくりの技術向上につながっています。
	フラワーコーディネーター主催で花づくり講習会を市民向けに開催します。また、市民花壇ボランティアを対象に講習会の開催を行い、花づくりの推進とボランティア間の交流の推進を行います。	10 回		100.0 %	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市民花壇においては、フラワーコーディネーターによる種からの花づくりの現地指導や講座の開催などを行い、ボランティア団体間での交流の推進を行うことが出来たと考えられます。また、公共花壇で活動を行っている「勝山公園うるつちゃ!花壇」では、ボランティア団体自ら花壇デザインを行うなど活動が活発に行われています。 特別緑地保全地区の平成24年度用地取得箇所については、地権者との交渉に時間を要していましたが、平成25年度には取得できました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	市民花壇や学校等でのフラワーコーディネーターの指導箇所が増加するなど「経済性」は向上したと考えられます。スポンサー花壇については企業の廃業等により若干の減となりましたが、これまでと同様に企業・団体に協力していただき効果的な維持管理を行うことが出来ました。 今後は、市民や企業、団体との協働を更に推進していくためにも、市民花壇等のボランティア団体の活動を民間企業等に業務委託することで、民間の活力の導入と経済性・効率性の向上を図り、事業のPRを検討し進めます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	公園建設課
課長名	藤井

事業概要

事業名	地域に役立つ公園づくり事業				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (2) - ①	
事業概要	計画段階から地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指すものです。 具体的には、小学校区を1つの単位として、まちづくり協議会を中心とする地域住民と協働で校区内にある街区公園の再整備計画を策定し、整備を行います。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		人件費
	230,000 千円	234,794 千円			6,825 千円	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 ワークショップ参加者の年齢層に偏りがみられるため、多世代参加に向け更なる努力が必要です。	見直し内容	まちづくり協議会には、町内会長や公園愛護会長のみならず、婦人会や子ども会、小学校PTAへ、参加の声かけをお願いします。その一方で、市でも、小学校への遊具アンケートや公園周辺の住民へのPRチラシポスティング等を行い、さまざまな世代、さまざまな立場の住民の意見を吸い上げることにつとめます。
----	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	公園を身近に感じられ、積極的に活用してもらおう状態にすることを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	市民が公園を身近に感じられる状態 当事業は 地域住民とのワークショップを重ね、地域のニーズを反映させた公園を整備するため、「当事業による整備公園数」を指標とします。 (最終目標と目標年度)	38 公園 31 公園	35 公園	38 公園 108.6 %	平成24年度までにワークショップを実施し計画策定を行った校区において、予定通り、再整備工事を行いました。
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	H25年度は、2校区でワークショップを開催し、計画策定を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	計画策定校区数 毎年、各区の事業実施進捗率や街区公園の老朽化度、まちづくり活動への積極性などをもとに、複数校区を選定し、計画策定を行っていきます。	4 校区 4 校区	2 校区	2 校区 100.0 %	予定通り、2校区においてワークショップを開催し、計画策定を行いました。
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	H25年度に、2校区でワークショップを開催し、計画策定を行いました。 ワークショップを通じて、公園のあり方や維持管理の視点など、地域の公園の現状や問題点などを共有することができました。 このほか、ワークショップにおける意見交換や小学校児童への遊具アンケートなどを通して、参加者が互いの意見を聞きながら計画をつくりあげていくことで、より公園を身近に感じ愛着を得る良い機会となりました。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	ワークショップにおいては、造園コンサルタントや市職員が助言をしつつ、使用可能なものは再利用したり、新設の施設についての必要性などを参加した住民の皆さんと議論したり、常にコスト縮減の考え方を取り入れた再整備計画案を策定しています。 また、民間活力導入については、公共性が極めて高い事業であることから、他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当と考えています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	建設局
				担当課	水環境課
				課長名	関川
事業名	身近に自然を感じる河川整備事業			施策番号	
				Ⅲ - 1 - (2) - ③	
事業概要	これまでの河川事業は治水整備を中心に行われてきました。このため、生物の生息・生育環境などへの配慮が不足し、河川は人工的な水路ようになってしまいました。そこで、都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、水際の植生や自然な流れの復元などにより、生物の生息・生育環境に配慮した整備を行うことにより、ホタルの飛翔や緑の増加など、身近に自然を感じる水辺環境整備事業を行っています。			事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	25年度当初予算額 630,000 千円	25年度執行額 838,590 千円	(事業費備考) 目安の金額 48,250 千円		課長 0.50 人 係長 0.50 人 職員 5.00 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	今後もより一層、環境に配慮した護岸の整備を行い、市民が河川に親しみを感じる状態を目指します。(現状維持)
	護岸工事を行う際には、積極的に環境に配慮した整備を行っており、すでに最終目標を達成しました。今後も、より一層、環境に配慮した護岸の整備の進捗を図ります。		

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 河川	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ホタルなどの生物の生息・生育環境に配慮した整備を行うことにより、自然を身近に感じる河川を取り戻します。	成果の状況 代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 環境に配慮した護岸整備	上段:23年度実績 下段:24年度実績 -	25年度目標 -	25年度実績(達成率) -	成果の状況 評価理由 計画的な整備により、市民が河川に親しみやすい環境整備が進んでいると考えています。
	護岸工事を行う際には、生態系に配慮した整備を行うことで、自然を身近に感じる状態を目指します。 (最終目標と目標年度)	-	-	%	
	(最終目標と目標年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 河川整備を行う際に、限られた敷地の中で、最大限生態系に配慮した整備を進めていきます。	活動の状況 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 環境に配慮した護岸整備延長	上段:23年度実績 下段:24年度実績 32,700 m	25年度目標 32,900 m	25年度実績(達成率) 34,700 m	活動の状況 評価理由 環境に配慮した護岸の整備が目標以上に進捗しているため、大変順調と判断しました。
	護岸工事を行う際に、生物の生息・生育環境となっている水際部を保全・復元するなど、生物に配慮した護岸の整備を進めます。	32,800 m		105.5 %	
				%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 護岸工事を行う際には、ほとんどの河川で環境に配慮した整備を行っており、活動の状況は大変順調です。これにより、河川に親しみやすい環境整備が進み、成果の状況も順調です。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点 各河川ごとに工法の検討などを行い、一番安価で効果のある工法を選択しています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	建設局	
				担当課	道路計画課	
				課長名	上田	
事業名	バリアフリーのまちづくり			施策番号		
				Ⅲ - 1 - (3) - ②		
事業概要	高齢者や障害者など、誰もが安全で快適に通行できるよう、道路・公園のバリアフリー化を行い、バリアフリーのまちづくりを進めます。具体的には、歩道の新設や拡幅、段差解消、視覚障害者誘導用ブロックの連続誘導などのバリアフリー化を行います。			事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
					(人件費備考)	
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
	1,618,000 千円	983,128 千円			26,150 千円	係長 1.00 人 職員 2.00 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	主要駅周辺の歩道のバリアフリー化が完了していない路線については、用地買収や沿道の建物との高さ調整などが必要とされるため、調整が難航している箇所があります。また現在、道路・街路事業に合わせ、歩道整備を行っているものについては、完了までには長期間の日時がかかります。今後は、対策が具体化していない地区について、関係機関と調整していく必要があります。	見直し内容 北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)との協議や現地点検は、これまでどおり協議を重ねながら、小学校の通学路の歩道整備とともにバリアフリー化の整備向上を図っていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	高齢者や障害者などを含めた全ての人	バリアフリー新法にも対応したよりきめ細かな歩道のバリアフリー化に取り組み、歩いて暮らせるまちづくりを推進します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	主要駅周辺地区の主要経路の整備率	88 %	88 %	88 %	関係団体と協議を行いながら、計画的に整備を行っており、順調と考えています。 (計画の見直しにより、H24年度から対象路線が増えたため、H23年度に比べH24の整備率が下がっています。)
	主要駅周辺の主要経路についても、北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)等との意見交換を踏まえ、整備を行っていることから、整備率を指標とします。	87 %		100.0 %	
	(最終目標と目標年度) 100% H32年度			%	
(最終目標と目標年度)					

活動計画	どうやって目的を達成するか	「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」等と協議や現地点検を重ねながら、歩道のバリアフリー化の整備向上を図ります。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由	
	歩道整備延長	7.5 km	5.0 km	5.1 km	関係団体と協議を行いながら、計画的に整備を行っており、順調と考えています。	
	歩道設置や歩道のバリアフリー化を行った整備延長	5.3 km		102.0 %		
	主要駅周辺のバリアフリー特定経路の整備延長	1.96 km	0.3 km	0.3 km		
主要な駅の周辺において、公共施設や病院などを結ぶ主要な道路を主要経路と定めて、歩道の新設や拡幅、段差解消、視覚障害者誘導用ブロックの連続誘導などのバリアフリー化を進めます。	0.18 km	100.0 %				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 本市における高齢化率は、全国平均を大きく上回るとともに、他の政令指定都市と比べ最も高く、高齢化が急速に進展しています。少子高齢化社会を先取りする先進的な取り組みが求められる中でバリアフリー化の推進は必要不可欠であり、着実な取り組みを継続することが必要であると考えます。現在、道路計画課の担当係長及び職員が主体的に「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」と調整等を行い、各区において適切なバリアフリー整備に取り組むとともに、東西整備事務所及び各区まちづくり整備課において、歩道整備や歩道の段差解消等の改修を行っています。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点 本市は平成9年度の小倉都心地区をモデル地区から、市民との協働によるバリアフリーのまちづくりを行っております。現在もバリアフリー化については「北九州市福祉のまちづくりネットワーク」と現地点検や意見交換会を行いながら、事業を進めています。なお、現在のところ、歩道の新設、改良については他の実施主体は考えられないため、実施主体は市が適当だと考えます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	道路計画課
課長名	上田

事業概要

事業名	通学路の安全対策				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (3) - ②	
事業概要	登下校中の児童が交通事故に巻き込まれず、安全に安心して通学できる環境を整えるため、教育委員会や学校関係者、警察と一体となって、さらなる通学路の安全対策を推進します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		目安の金額
	725,000 千円	562,425 千円		26,150 千円	(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 本市ではこれまで、市内全小学校の通学路の点検を行い、対策の実施や安全マップの作成・配布を行うなど、きめ細かい通学児童の安全対策を実施してきました。しかし、全国各地で登下校中の児童等が死傷する交通事故が連続して発生したことを受け、緊急合同点検を実施するなどさらなる通学路における交通安全の確保に取り組んでいます。	見直し内容	取組が着実かつ効果的に実施できるよう、教育委員会や警察などの関係機関と連携して引き続き積極的に取組みます。
----	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	登下校中の児童等	通学路において児童等が安心して安全に登下校できる状態				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	通学路の危険箇所における対策完了箇所数	-	-	165 箇所	学校からの改善要望箇所の対策を鋭意進めており、順調と考えています。	
	平成24年度に実施した通学路の緊急合同点検以降、学校から改善の要望があった危険箇所に対して、効果的な対策を検討し、実施していきます。 (最終目標と目標年度)	-	-	%		
				%		
(最終目標と目標年度)			%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	教育委員会、学校、PTA、警察などの関係者とこれまで以上に連携を図りながら、効率的・効果的な対策を推進します。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由	
	歩道整備延長	-	-	3.1 km	学校からの改善要望箇所の対策を鋭意進めており、順調と考えています。	
	歩道の新設や拡幅整備を行った延長	-	-	%		
	防護柵設置延長	-	-	0.9 km		
歩車道の境界部などに設置した防護柵の延長	-	-	%			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	地元等の関係者との調整が整った箇所から順次整備を進めるとともに、用地買収等が必要なため、事業期間が長期となる箇所についても早期完了を図るため、鋭意事業を進めています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	対策実施にあたっては、緊急性や必要性を考慮するとともに、効果的な対策方法を十分に検討した上で行っています。なお、通学路における歩道整備や防護柵設置については、他の事業主体による整備は考えられないため、実施主体は市が適当だと考えます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	建設局
				担当課	道路計画課
				課長名	上田
事業名	小倉駅・黒崎駅前の賑わいづくりの推進				V - 1 - (2) - ①
事業概要	北九州市の玄関口となる小倉都心部と黒崎副都心部の駅前において、魅力的な都市環境の創造につながる道路環境整備を行い、まちの賑わいを推進します。				<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 1.00 人
	608,000 千円	426,173 千円		61,500 千円	係長 2.00 人 職員 4.00 人
					(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	小倉都心部及び黒崎副都心部の駅前整備は、まちの賑わいづくりを進めるうえで重要な取組であるため、この後も着実な取組を継続することが必要であると考えます。	見直し内容	取組が着実かつ効果的に実施できるように、地元団体やJR九州等の関係者と連携して引き続き積極的に取組みます。
----	-------------------	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	-
	小倉都心・黒崎副都心地区	小倉駅及び黒崎駅南北の回遊性強化をはじめとし、更なる活性化、賑わいづくりを推進します。					
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由		
	公共交通結節機能の強化	-	-	-	建設途上のため、単年度の評価はありません。		
	黒崎駅南口で収容しきれない機能を、北口に転換するため、黒崎駅北口駅前広場と一体となって自由通路を整備することで、黒崎駅周辺の交通結節機能の強化を図ります。それにより、自由通路利用者数が約2000人増加します(H24比較)。	-	-	-			
	(最終目標と目標年度)自由通路利用者数約2,000人増 H30年度			%			
(最終目標と目標年度)			%				

活動計画	どうやって目的を達成するか	賑わいづくりの推進を図るため、地元団体、JR等の協力を得ながら、協議を密に行い、まちづくり整備を進めていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	事業の進捗率(黒崎駅南北自由通路、黒崎ペDESTリアンデッキルーフの整備)	-	7 %	7 %	工事発注率は予定通りで、計画的に事業進捗を図っています。
	黒崎駅における南北自由通路及びペDESTリアンデッキルーフ整備の円滑な進捗に努めます。	-		100.0 %	
	事業の進捗率(小倉駅南北自由通路のリニューアル)	-	5 %	5 %	
老朽化した天井の張替等に併せて、小倉駅南北連絡通路のリニューアルを行います。	-		100.0 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	発注工事はほぼ順調に進められています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本件整備に関して、コスト縮減を図っており、引き続き品質の確保についても十分に配慮しながらコスト縮減を図っていきます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	建設局
					担当課	道路計画課
					課長名	上田
事業名	小倉駅・黒崎駅前の賑わいづくりの推進				施策番号	
					V - 1 - (2) - ②	
事業概要	北九州市の玄関口となる小倉都心部と黒崎副都心部の駅前において、魅力的な都市環境の創造につながる道路環境整備を行い、まちの賑わいを推進します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人員費		目安の金額
	608,000 千円	426,173 千円			61,500 千円	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	取組が着実かつ効果的に実施できるように、地元団体やJR九州等の関係者と連携して引き続き積極的に取組みます。
	小倉都心部及び黒崎副都心部の駅前整備は、まちの賑わいづくりを進めるうえで重要な取組であるため、この後も着実な取組を継続することが必要であると考えます。		

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	-
	小倉都心・黒崎副都心地区	小倉駅及び黒崎駅南北の回遊性強化をはじめとし、更なる活性化、賑わいづくりを推進します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	公共交通結節機能の強化	-	-	-	建設途上のため、単年度の評価はありません。	
	黒崎駅南口で収容しきれない機能を、北口に転換するため、黒崎駅北口駅前広場と一体となって自由通路を整備することで、黒崎駅周辺の交通結節機能の強化を図ります。それにより、自由通路利用者数が約2000人増加します(H24比較)。	-	-	-		
	(最終目標と目標年度)自由通路利用者数約2,000人増 H30年度			%		
(最終目標と目標年度)			%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	賑わいづくりの推進を図るため、地元団体、JR等の協力を得ながら、協議を密に行い、まちづくり整備を進めていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	事業の進捗率(黒崎駅南北自由通路、黒崎ペDESTリアンデッキルーフの整備)	-	7 %	7 %	工事発注率は予定通りで、計画的に事業進捗を図っています。
	黒崎駅における南北自由通路及びペDESTリアンデッキルーフ整備の円滑な進捗に努めます。	-		100.0 %	
	事業の進捗率(小倉駅南北自由通路のリニューアル)	-	5 %	5 %	
老朽化した天井の張替等に併せて、小倉駅南北連絡通路のリニューアルを行います。	-		100.0 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	発注工事はほぼ順調に進められています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本件整備に関して、コスト削減を図っており、引き続き品質の確保についても十分に配慮しながらコスト削減を図っていきます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	道路計画課
課長名	上田

事業概要

事業名	自動車専用道路ネットワークの整備				施策番号	
					V - 2 - (2) - ①	
事業概要	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進していきます。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		目安の金額
	606,667 千円	390,176 千円		69,000 千円	(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	23年度から24年度にかけ事業はほぼ順調に進捗しました。特に24年度においては、新若戸道路の1期の完成や黒崎バイパスの都市高速道路接続など、目にみえて成果が現れた年になりました。現在整備を行っている幹線道路については、引き続き事業進捗を図って行きます。	見直し内容	暫定供用など計画的な整備を図ります。事業費は、一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図ることとし、減額しています。
----	-------------------	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	-
	交通物流機能の強化 市民の交通利便性の向上	自動車専用道路である戸畑枝光線及び黒崎バイパスの整備を推進し、物流ネットワークを重点的かつ速やかに形成することで、産業の振興や新たな企業誘致を進め、アジアの玄関口である本市の国際競争力の強化を図ります。また、地域間の連携・交流促進、市民の交通利便性の向上などに資する道路・交通ネットワークの整備を進めます。					
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由		
	広域物流ネットワークの強化	-	-	-	建設途上のため、単年度の評価はありません。		
	戸畑枝光線の整備により、朝ピーク時において、響灘地区(安瀬)～東田地区(枝光)間の所要時間が43分から13分に短縮されます。	-	-	-			
	(最終目標と目標年度) 所要時間短縮 H39年度			%			
(最終目標と目標年度)			%				

活動計画	どうやって目的を達成するか	広域物流ネットワークの強化及び地域間のアクセス向上を図るため、事業の選択と集中により、自動車専用道路ネットワーク(戸畑枝光線、国道3号(黒崎バイパス))の整備を促進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	戸畑枝光線の事業進捗率	-	-	5 %	発注工事は順調に進められており、計画的に事業進捗を図っています。
	産業拠点や地域間のアクセス向上のため、戸畑枝光線の整備を進めます。	4 %	5 %	100.0 %	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	発注した工事については、ほぼ順調に進められています。引き続き用地の確保に努めながら、早期に効果が現れるよう、暫定整備や一定区間の整備を図っていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	道路整備に関し、コスト削減を図っており、引き続き、品質の確保にも十分に配慮しながらコスト削減を図っていきます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	建設局		
				担当課	道路計画課		
				課長名	上田		
事業名	主要な道路の整備(恒見朽網線など)			施策番号			
				V - 2 - (2) - ①			
事業概要	主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備することで、市内の渋滞対策、物流ネットワークの強化、地域間の連携・交流促進を図ります。			<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他			
				() (人件費備考) 本庁道路部+東西整備事務所の職員を対象に試算しています。			
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 3.00人
		6,438,873 千円	8,184,647 千円			217,250 千円	係長 6.50人 職員 15.70人

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	23年度から24年度にかけ事業はほぼ順調に進捗しました。現在整備を行っている幹線道路については、引き続き事業進捗を図って行きます。	見直し内容	暫定供用など計画的な整備を図ります。事業費は、一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図ることとし、減額しています。
----	-------------------	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	-
	交通物流機能の強化 市民の交通利便性の向上	本市の競争力の強化を図るため、物流拠点間のアクセスを強化し、広域的なネットワークを形成します。また、地域間の連携・交流促進、市民の交通利便性の向上などに資する道路・交通ネットワークの整備を進めます。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	広域物流ネットワークの強化	-	-	-	建設途上のため、単年度の評価はありません。	
	恒見朽網線の整備により、新門司地区と北九州空港間の所要時間が36分から28分に短縮されます。	-	-	%		
	(最終目標と目標年度)所要時間短縮 H37年度					
(最終目標と目標年度)			%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	物流ネットワーク構築のため、道路の早期整備を促進します。また、整備中の道路については、供用目標年次に向け、確実に整備促進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	主要な街路・道路の単年度完成延長(暫定での供用を含む)	2.5 km	2.5 km	2.5 km	発注工事は順調に進められており、計画的に事業進捗を図っています。
	市内の渋滞対策やネットワーク強化のため、主要な街路・道路の整備を進めています。	3.7 km		100.0 %	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	発注した工事については、ほぼ順調に進められています。引き続き用地の確保に努めながら、早期に効果が現れるよう、暫定整備や一定区間の整備を図っていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	道路整備に関し、コスト削減を図っており、引き続き、品質の確保にも十分に配慮しながらコスト削減を図っていきます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	建設局		
				担当課	道路計画課		
				課長名	上田		
事業名	自動車専用道路ネットワークの整備			施策番号			
				V - 2 - (2) - ②			
事業概要	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進していきます。			<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他			
				()			
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	1.00 人
		606,667 千円	390,176 千円			人件費	係長
						職員	5.00 人
						(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	23年度から24年度にかけ事業はほぼ順調に進捗しました。特に24年度においては、新若戸道路の1期の完成や黒崎バイパスの都市高速道路接続など、目にみえて成果が現れた年になりました。現在整備を行っている幹線道路については、引き続き事業進捗を図って行きます。	見直し内容	暫定供用など計画的な整備を図ります。事業費は、一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図ることとし、減額しています。
----	-------------------	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	-
	交通物流機能の強化 市民の交通利便性の向上	自動車専用道路である戸畑枝光線及び黒崎バイパスの整備を推進し、物流ネットワークを重点的かつ速やかに形成することで、産業の振興や新たな企業誘致を進め、アジアの玄関口である本市の国際競争力の強化を図ります。また、地域間の連携・交流促進、市民の交通利便性の向上などに資する道路・交通ネットワークの整備を進めます。					
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由		
	広域物流ネットワークの強化	-	-	-	建設途上のため、単年度の評価はありません。		
	戸畑枝光線の整備により、朝ピーク時において、響灘地区(安瀬)～東田地区(枝光)間の所要時間が43分から13分に短縮されます。	-	-	-			
	(最終目標と目標年度) 所要時間短縮 H39年度			%			
(最終目標と目標年度)			%				

活動計画	どうやって目的を達成するか	広域物流ネットワークの強化及び地域間のアクセス向上を図るため、事業の選択と集中により、自動車専用道路ネットワーク(戸畑枝光線、国道3号(黒崎バイパス))の整備を促進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	戸畑枝光線の事業進捗率	-	-	5 %	発注工事は順調に進められており、計画的に事業進捗を図っています。
	産業拠点や地域間のアクセス向上のため、戸畑枝光線の整備を進めます。	4 %	5 %	100.0 %	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	発注した工事については、ほぼ順調に進められています。引き続き用地の確保に努めながら、早期に効果が現れるよう、暫定整備や一定区間の整備を図っていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	道路整備に関し、コスト削減を図っており、引き続き、品質の確保にも十分に配慮しながらコスト削減を図っていきます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	道路計画課
課長名	上田

事業概要

事業名	主要な道路の整備(恒見朽網線など)				施策番号	
					V - 2 - (2) - ②	
事業概要	主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備することで、市内の渋滞対策、物流ネットワークの強化、地域間の連携・交流促進を図ります。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		目安の金額
	6,438,873 千円	8,184,647 千円		217,250 千円	(人件費備考) 本庁道路部+東西整備事務所の職員を対象に試算しています。	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	23年度から24年度にかけ事業はほぼ順調に進捗しました。現在整備を行っている幹線道路については、引き続き事業進捗を図って行きます。	見直し内容	暫定供用など計画的な整備を図ります。事業費は、一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図ることとし、減額しています。
----	-------------------	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	-
	交通物流機能の強化 市民の交通利便性の向上	本市の競争力の強化を図るため、物流拠点間のアクセスを強化し、広域的なネットワークを形成します。また、地域間の連携・交流促進、市民の交通利便性の向上などに資する道路・交通ネットワークの整備を進めます。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	広域物流ネットワークの強化	-	-	-	建設途上のため、単年度の評価はありません。	
	恒見朽網線の整備により、新門司地区と北九州空港間の所要時間が36分から28分に短縮されます。	-	-	%		
	(最終目標と目標年度)所要時間短縮 H37年度					
(最終目標と目標年度)			%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	物流ネットワーク構築のため、道路の早期整備を促進します。また、整備中の道路については、供用目標年次に向け、確実に整備促進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	主要な街路・道路の単年度完成延長(暫定での供用を含む)	2.5 km	2.5 km	2.5 km	発注工事は順調に進められており、計画的に事業進捗を図っています。
	市内の渋滞対策やネットワーク強化のため、主要な街路・道路の整備を進めています。	3.7 km		100.0 %	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	発注した工事については、ほぼ順調に進められています。引き続き用地の確保に努めながら、早期に効果が現れるよう、暫定整備や一定区間の整備を図っていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	道路整備に関し、コスト削減を図っており、引き続き、品質の確保にも十分に配慮しながらコスト削減を図っていきます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	建設局		
				担当課	道路維持課		
				課長名	岩下		
事業名	橋梁・トンネルの長寿命化への計画的な取り組み			施策番号			
				V - 3 - (1) - ②			
事業概要	市内には、約2,000の橋梁と42本のトンネルがあり、これら橋の多くは高度経済成長期以降に建設されたもので高齢化・老朽化の進展が懸念されています。そこで、長期的視点にたち効率的・効果的に管理するアセットマネジメントの考え方を取り入れ、従来の悪くなったら補修する対症療法型を改め、計画的に手を入れて長持ちさせる予防保全型に移行するため、「北九州市橋梁長寿命化修繕計画」(H22.7計画公表)及び「北九州市トンネル長寿命化修繕計画」(H25.2計画公表)を策定しました。本事業は、この計画をもとに、予防が有効な状態である健全度Ⅲ以上の橋梁とトンネルを増加させることで市民の安全・安心を確保します。			事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他		
					()		
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.60人	
	2,239,000 千円	2,745,387 千円			90,650 千円	係長	1.25人
				人員費	職員		9.50人

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	橋梁・トンネル長寿命化修繕計画に基づき順調に事業が進捗しました。今後も引き続き橋梁・トンネルの長寿命化に取り組み補修補強工事を進めていきます。	見直し内容	平成31年度までにすべての主要橋梁が健全度ランクⅢ以上となるよう計画に沿って事業を進めていきます。 平成33年度までにすべてのトンネルが健全度ランクⅢ以上となるよう計画に沿って事業を進めていきます。
----	-------------------	---	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	-
	主要橋梁、トンネル	すべての橋梁・トンネルが予防保全の有効な健全度ランクⅢ以上となる状態					
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由		
	主要橋梁の健全度向上による市民の安全・安心の確保	—	—	—	建設途上のため、単年度の評価はありません		
	すでに老朽化が進んでいる128橋を予防保全が有効な健全度ランクⅢ以上になるように補修補強工事を実施し、健全度ランクⅢ以上の割合を増加させます。	—	—	%			
	(最終目標と目標年度)全主要橋梁の健全度Ⅲ以上 31年度	—	—	%			
トンネルの健全度向上による市民の安全・安心の確保	—	—	—				
すでに老朽化が進んでいる8トンネルを予防保全が有効な健全度ランクⅢ以上になるように補修補強工事を実施し、健全度ランクⅢ以上の割合を増加させます。	—	—	—	%			
(最終目標と目標年度)全トンネルの健全度Ⅲ以上 33年度	—	—	—	%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	今年度実施予定の24橋について健全度向上を図るため、補修補強工事を実施し、完成を目指します。 トンネルは、8トンネルについて健全度向上を図るため、補修補強設計及び工事に着手します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	リニューアル対象橋梁の完成数	6 橋	24 橋	24 橋	事業が予定どおり進んでいるため順調としました。
	すでに老朽化が進んでいる128橋のうち24橋について工事の完成を目指します。	13 橋	—	100.0 %	
	リニューアル対象トンネルの完成数	—	5 トンネル	5 トンネル	
すでに老朽化が進んでいる8トンネルのうち5トンネルについて工事着手を目指します。	—	—	100.0 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	活動の状況については、事業が予定どおり進んでいるため順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	長寿命化修繕計画に基づく補修補強工事の実施により、従来型の維持管理と比較し、維持管理コストの縮減が図られ、また、予算の平準化が可能となりました。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	公園建設課
課長名	菊山
施策番号	
VI - 1 - (2) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	長野緑地を利用した農業体験教室				
	計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組む。また、子どもたちが自然の中で遊び、学ぶ場を提供したり、収穫物を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催します。				
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	2,600 千円	2,600 千円			1,595 千円
				課長	0.03 人
				係長	0.05 人
				職員	0.10 人

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	H23年度は活動予定日に雨の日が多く、参加者数が2,000人に届きませんでした。気象条件によって実施回数が左右される事業ですが、イベントの周知に努め、毎年度の参加者数が2,000人を超えることを目指します。	見直し内容	ホームページ等を活用して、事業の積極的な周知に努めます。
----	-------------------	---	-------	------------------------------

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
代表的な成果指標	公園計画地を有効活用と里山・里地としての農村景観の維持	長野緑地ではその計画テーマとして「自然と人を育む、体験交流公園」を目指しています。当事業ではH15年度に完成した「学習用田圃」の効率的な管理運営として、また、計画地の買取済区域等の暫定的利用の一手法として、市民が農作業を通して自然環境について体験学習する「農業体験教室」を行います。それにより公園計画地を有効活用するとともに、里山・里地としての農村景観の維持を図ります。	25年度実績	25年度実績(達成率)	参加者数2,000人という目標を大幅に超えて、達成することができました。
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	
	市民参加による農業体験教室の参加者数	1,759 人	2,000 人	2,243 人	
	H15年度に事業を開始しH20年度に参加者数が2,000人を超えました。毎年度2,000人を超える参加者を目指します。 (最終目標と目標年度)毎年度参加者数2,000人	2,068 人		112.2 %	
(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	活動の状況	活動の状況	活動の状況	活動の状況	活動の状況	
どうやって目的を達成するか	農業体験教室は自然相手の事業であり、毎年、天候や気象条件が異なる中で、最善を尽くして事業を進めていきます。地域の団体や幼稚園、小学校と連携して活動を行います。農業体験を行うことで、自然に親しむ機会を与え、食への関心、家族や友達とのふれあいや、一緒に作業することへの喜びが得られることを期待しています。事業の実施はNPO法人長野美し村計画実行委員会に委託しています。	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	
活動指標	市民参加による農業体験教室の実施	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由	25年度実績	25年度目標	
	野菜作りの基本学習、土になじむことを目的としたサツマイモの作付け、芋ほりや水田でのもち米の田植え稲刈り等を行い、収穫物の試食会を開催します。ひまわり、コスモスの種まきを行い、花畑整備を行います。	55 回	農業体験教室開催50回という目標を大幅に超えて、達成することができました。	50 回	50 回	
		110.0 %				
		%				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	天候に左右される事業ですが、今年度も天気にも恵まれ、成果指標・活動指標ともに目標を達成することができ、大変効果的な事業であったと考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	委託している「NPO法人長野美し村計画実行委員会」の主な構成員は、地元の農業従事者であり、自宅からの長野緑地までの距離が近いことや農業用耕作機械等の調達等の面で有利です。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	緑政課
課長名	柴田

事業概要

事業名	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり				施策番号	
					VI - 2 - (1) - ③	
事業概要	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花や緑を活用する事業です。花壇(公共花壇)の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うるつちゃ!花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進します。道路や公園などの緑は、都市景観を印象付けるとともに、快適な生活環境をつくります。また都市景観を印象付け、快適な生活環境をつくる道路などの緑の整備については、植栽場所の生育空間などを考慮した、ゆとりある植栽を行うとともに、適正な維持管理を行うことで健全な緑の育成に努めています。さらに特別緑地保全地区制度や保存樹制度を活用し、都市に残された貴重な緑の保全に努めています。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		目安の金額
	93,183 千円	112,038 千円		23,150 千円	(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容
	①効果的な場所への公共花壇の設置 ②特別緑地保全地区における土地取得の遅れ	①公共花壇の配置及びデザインの見直し ②土地取得の強化

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	①市内各所 ②都市内の緑	①花で彩られ、四季折々に花を楽しむことが出来る「花のまち北九州市」をさらに育ていき、市民はもちろん、ここを訪れた人にも「住んでみたい、住み続けたい」と思える「花とみどり潤いのまちづくり」を目指します。 ②特別緑地保全地区において、土地取得を行います。					
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由		
	公共花壇及び市民花壇の面積	44,829 m ²	45,987 m ²	44,693 m ²	公共花壇、市民花壇については技術講習会と連動し、花壇の質の向上を図りました。花壇面積は目標値に達していませんが、市民花壇の箇所数は増加しており、街なかで花を楽しむ箇所は順調に増えました。特別緑地保全地区については予定通り買収が進み、都市の良好な緑の保全することができました。		
	公共花壇及び市民花壇は市民が一番身近にある花壇であり、市と市民の花づくりの実績に直ちに反映されるものです。今後も市民との協働で「花とみどりの潤いのまちづくり」の推進に努めていきます。 (最終目標と目標年度) 平成27年度 46,587m ²	45,766 m ²		97.2 %			
	特別緑地保全地区の買収面積	2,400 m ²	2,400 m ²	2,572 m ²			
特別緑地保全地区の買収を行い、都市の中の緑の保全を行っています。 (最終目標と目標年度)	0 m ²		107.2 %				

活動計画	市民花壇においては市民との協働を推進していき、種からの花づくり推進やフラワーコーディネーターの主催する講座の開催などを推進していきます。 公共花壇においては、市民ボランティアとの協働や企業・団体の協力を得ながら効率的な維持管理に努め、より効果的な場所に設置し事業効果を維持していきます。 緑地保全地区においては、買入れ申し出のある土地について取得を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	花づくりに関する講座の開催	13 回	10 回	10 回	フラワーコーディネーターによる花づくりの講習会は、大変好評です。市民花壇ボランティア対象の講習会も地域の市民花壇づくりの技術向上につながっています。
	フラワーコーディネーター主催で花づくり講習会を市民向けに開催します。また、市民花壇ボランティアを対象に講習会の開催を行い、花づくりの推進とボランティア間の交流の推進を行います。	10 回		100.0 %	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市民花壇においては、フラワーコーディネーターによる種からの花づくりの現地指導や講座の開催などを行い、ボランティア団体間での交流の推進を行うことが出来たと考えられます。また、公共花壇で活動を行っている「勝山公園うるつちゃ!花壇」では、ボランティア団体自ら花壇デザインを行うなど活動が活発に行われています。 特別緑地保全地区の平成24年度用地取得箇所については、地権者との交渉に時間を要していましたが、平成25年度には取得できました。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	市民花壇や学校等でのフラワーコーディネーターの指導箇所が増加するなど「経済性」は向上したと考えられます。スポンサー花壇については企業の廃業等により若干の減となりましたが、これまでと同様に企業・団体に協力していただき効果的な維持管理を行うことが出来ました。 今後は、市民や企業、団体との協働を更に推進していくためにも、市民花壇等のボランティア団体の活動を民間企業等に業務委託することで、民間の活力の導入と経済性・効率性の向上を図り、事業のPRを検討し進めます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	水環境課
課長名	関川
施策番号	
VI - 4 - (1) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	25年度当初予算額 25年度執行額 (事業費備考) 630,000 千円 838,590 千円 目安の金額 課長 0.50 人 48,250 千円 係長 0.50 人 職員 5.00 人 (人件費備考)

事業概要

事業名	身近に自然を感じる河川整備事業		
事業概要	これまでの河川事業は治水整備を中心に行われてきました。このため、生物の生息・生育環境などへの配慮が不足し、河川は人工的な水路ようになってしまいました。そこで、都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、水際の植生や自然な流れの復元などにより、生物の生息・生育環境に配慮した整備を行うことによって、ホタルの飛翔や緑の増加など、身近に自然を感じる水辺環境整備事業を行っています。		

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	今後もより一層、環境に配慮した護岸の整備を行い、市民が河川に親しみを感じる状態を目指します。(現状維持)
----	-------------------	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	順調	
	河川	ホタルなどの生物の生息・育成環境に配慮した整備を行うことによって、自然を身近に感じる河川を取り戻します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	環境に配慮した護岸整備	-	-	-	計画的な整備により、市民が河川に親しみやすい環境整備が進んでいると考えています。
	護岸工事を行う際には、生態系に配慮した整備を行うことで、自然を身近に感じる状態を目指します。 (最終目標と目標年度)	-	-	- %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	活動の状況	大変順調			
どうやって目的を達成するか 河川整備を行う際に、限られた敷地の中で、最大限生態系に配慮した整備を進めていきます。	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック				
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	環境に配慮した護岸整備延長	32,700 m	32,900 m	34,700 m	環境に配慮した護岸の整備が目標以上に進捗しているため、大変順調と判断しました。
	護岸工事を行う際に、生物の生息・育成環境となっている水際部を保全・復元するなど、生物に配慮した護岸の整備を進めます。	32,800 m		105.5 %	
	(最終目標と目標年度)			%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	護岸工事を行う際には、ほとんどの河川で環境に配慮した整備を行っており、活動の状況は大変順調です。これにより、河川に親しみやすい環境整備が進み、成果の状況も順調です。
		各河川ごとに工法の検討などを行い、一番安価で効果のある工法を選択しています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	緑政課
課長名	柴田

事業概要							
事業名	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり					施策番号	
						VI - 4 - (1) - ③	
事業概要	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花や緑を活用する事業です。花壇(公共花壇)の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うるつちゃ!花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進します。道路や公園などの緑は、都市景観を印象付けるとともに、快適な生活環境をつくります。また都市景観を印象付け、快適な生活環境をつくる道路などの緑の整備については、植栽場所の生育空間などを考慮した、ゆとりある植栽を行うとともに、適正な維持管理を行うことで健全な緑の育成に努めています。さらに特別緑地保全地区制度や保存樹制度を活用し、都市に残された貴重な緑の保全に努めています。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	目安の金額		課長 0.10人 係長 0.70人 職員 2.00人
事業費	93,183 千円	112,038 千円		23,150 千円			

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	①効果的な場所への公共花壇の設置 ②特別緑地保全地区における土地取得の遅れ	見直し内容 ①公共花壇の配置及びデザインの見直し ②土地取得の強化

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) ①市内各所 ②都市内の緑	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ①花で彩られ、四季折々に花を楽しむことが出来る「花のまち北九州市」をさらに育ていき、市民はもちろん、ここを訪れた人にも「住んでみたい、住み続けたい」と思える「花とみどり潤いのまちづくり」を目指します。 ②特別緑地保全地区において、土地取得を行います。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由 公共花壇、市民花壇については技術講習会と連動し、花壇の質の向上を図りました。花壇面積は目標値に達していませんが、市民花壇の箇所数は増加しており、街なかで花を楽しむ箇所は順調に増えました。特別緑地保全地区については予定通り買収が進み、都市の良好な緑の保全することができました。
	公共花壇及び市民花壇の面積	44,829 m ²	45,987 m ²	44,693 m ²	
	公共花壇及び市民花壇は市民が一番身近にある花壇であり、市と市民の花づくりの実績に直ちに反映されるものです。今後も市民との協働で「花とみどりの潤いのまちづくり」の推進に努めていきます。 (最終目標と目標年度) 平成27年度 46,587m ²	45,766 m ²		97.2 %	
	特別緑地保全地区の買収面積	2,400 m ²	2,400 m ²	2,572 m ²	
	特別緑地保全地区の買収を行い、都市の中の緑の保全を行っています。 (最終目標と目標年度)	0 m ²		107.2 %	

活動計画				活動の状況	
活動計画	市民花壇においては市民との協働を推進していき、種からの花づくり推進やフラワーコーディネーターの主催する講座の開催などを推進していきます。 公共花壇においては、市民ボランティアとの協働や企業・団体の協力を得ながら効率的な維持管理に努め、より効果的な場所に設置し事業効果を維持していきます。 緑地保全地区においては、買入れ申し出のある土地について取得を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由 フラワーコーディネーターによる花づくりの講習会は、大変好評です。市民花壇ボランティア対象の講習会も地域の市民花壇づくりの技術向上につながっています。
	花づくりに関する講座の開催	13 回	10 回	10 回	
	フラワーコーディネーター主催で花づくり講習会を市民向けに開催します。また、市民花壇ボランティアを対象に講習会の開催を行い、花づくりの推進とボランティア間の交流の推進を行います。	10 回		100.0 %	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>市民花壇においては、フラワーコーディネーターによる種からの花づくりの現地指導や講座の開催などを行い、ボランティア団体間での交流の推進を行うことが出来たと考えられます。また、公共花壇で活動を行っている「勝山公園うるつちゃ!花壇」では、ボランティア団体自ら花壇デザインを行うなど活動が活発に行われています。特別緑地保全地区の平成24年度用地取得箇所については、地権者との交渉に時間を要していましたが、平成25年度には取得できました。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>市民花壇や学校等でのフラワーコーディネーターの指導箇所が増加するなど「経済性」は向上したと考えられます。スポンサー花壇については企業の廃業等により若干の減となりましたが、これまでと同様に企業・団体に協力していただき効果的な維持管理を行うことが出来ました。 今後は、市民や企業、団体との協働を更に推進していくためにも、市民花壇等のボランティア団体の活動を民間企業等に業務委託することで、民間の活力の導入と経済性・効率性の向上を図り、事業のPRを検討し進めます。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	建設局	
				担当課	公園建設課	
				課長名	菊山	
事業名	長野緑地を利用した農業体験教室			施策番号		
				VI - 4 - (1) - ③		
事業概要	計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組む。また、子どもたちが自然の中で遊び、学ぶ場を提供したり、収穫物を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催します。			事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
					()	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	人件費	目安の金額	課長 0.03 人
		2,600 千円	2,600 千円		1,595 千円	係長 0.05 人 職員 0.10 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	H23年度は活動予定日に雨の日が多く、参加者数が2,000人に届きませんでした。気象条件によって実施回数が左右される事業ですが、イベントの周知に努め、毎年度の参加者数が2,000人を超えることを目指します。	見直し内容 ホームページ等を活用して、事業の積極的な周知に努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
代表的な成果指標	公園計画地を有効活用と里山・里地としての農村景観の維持	長野緑地ではその計画テーマとして「自然と人を育む、体験交流公園」を目指しています。当事業ではH15年度に完成した「学習用田圃」の効率的な管理運営として、また、計画地の買収済区域等の暫定的利用の一手法として、市民が農作業を通して自然環境について体験学習する「農業体験教室」を行います。それにより公園計画地を有効活用するとともに、里山・里地としての農村景観の維持を図ります。	25年度実績(達成率)	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由 参加者数2,000人という目標を大幅に超えて、達成することができました。
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	
	市民参加による農業体験教室の参加者数	1759 人	2,000 人	2,243 人	
	H15年度に事業を開始しH20年度に参加者数が2,000人を超えました。毎年度2,000人を超える参加者を目指します。 (最終目標と目標年度) 毎年度参加者数2,000人	2068 人		112.2 %	
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	農業体験教室は自然相手の事業であり、毎年、天候や気象条件が異なる中で、最善を尽くして事業を進めていきます。地元の団体や幼稚園、小学校と連携して活動を行います。農業体験を行うことで、自然に親しむ機会を与え、食への関心、家族や友達とのふれあいや、一緒に作業することへの喜びが得られることを期待しています。事業の実施はNPO法人長野美し村計画実行委員会に委託しています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由 農業体験教室開催50回という目標を大幅に超えて、達成することができました。
	市民参加による農業体験教室の実施	37 回	50 回	55 回	
	野菜作りの基本学習、土になじむことを目的としたサツマイモの作付け、芋ほりや水田でのもち米の田植え稲刈り等を行い、収穫物の試食会を開催します。ひまわり、コスモスの種まきを行い、花畑整備を行います。	50 回		110.0 %	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>天候に左右される事業ですが、今年度も天気にも恵まれ、成果指標・活動指標ともに目標を達成することができ、大変効果的な事業であったと考えています。</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>委託している「NPO法人長野美し村計画実行委員会」の主な構成員は、地元の農業従事者であり、自宅からの長野緑地までの距離が近いことや農業用耕作機械等の調達等の面で有利です。</p>